資料1―②

基本目標横断プロジェクトの取り組み

プロジェク	内　容	担当部	担当課	取り組み計画 （Plan）	取り組み内容及び成果 （Do・ Check）	今後の見込み等 （Action）
①バイオマス産業都市さがの構築	ごみ処理施設や下水処理施設などの既存の施設を活用して新たなエネルギーや資源を創出し、バイオマスを活用したまちづくりを推進する。 併せて、行政が公平な立場で仲介役を果たし、バイオマスの活用に関する官民や民民の連携を実現していくことを基本的な手段として、経済性が確保された中でバイオマスの活用を推進する一貫システムの構築に取り組んでいく。	環境部	バイオマス産業都市推進課	・清掃工場の二酸化炭素分離回収装置の稼動及び藻類培養企業への供給。 ・藻類培養の拠点地の整備のための準備。 ・筑波大学、佐賀大学との藻類培養及び利活用に関する共同研究協定の締結及び役割についての協議。	・平成28年8月26日に稼働式を行い、藻類培養企業への二酸化炭素の供給を開始した。 ・大和町の旧工業団地予定地を藻類培養事業予定地として造成するための手続きを実施した。 ・平成28年8月に両大学との藻類バイオマスに関する利活用協定を締結し、具体的な研究内容等について協議を開始した。	・今後、藻類培養企業の生産量の増大に応じて二酸化炭素の供給量を増やしていく。 ・藻類培養事業としては国内最大規模となる施設の建設にむけ、用地の造成工事に着手する。 ・藻類バイオマスの活用に関する研究施設を建設し、培養から抽出、加工、商品開発に関する一連の技術開発についての研究を始める。
		上下水道局 下水プロジェクト推進部	下水エネルギー推進室	・下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）による下水処理時に発生するバイオガスから分離回収したCo2と脱水分離液を藻類培養へ活用する実証試験の検証及び取りまとめ。	〔検証中〕 ・CO2分離・回収技術は、下水バイオガスから製品CH4、CO2の分離効果や分離・回収性能の安定性について、年間を通じて目標を達成することを確認する。 ・藻類の実証研究は、生産に必要な窒素・リンを藻類で消費させることから、その削減効果を評価する。 ・可溶化技術は、実機及びラボ試験でのガス発生量増収効果の継続評価や、汚泥性状の把握、季節変動による影響の確認を行う。	・平成28年度の研究成果を踏まえB-DASHプロジェクトに関するガイドラインの取り纏め作業を進める。 ・平成29年度からは自主研究に着手し、下水道資源の活用について共同研究体で決定されるテーマに沿って実証研究を継続する。 ・下水道革新的技術実証事業で得られた研究成果を基に、産業や雇用創出に繋がるような施策を関係者と協議し模索していく。
②環境教育の推進	子どもから大人まであらゆる年齢層に応じた学習ができる仕組みづくりを行うことにより、体系的な環境教育を推進する。	環境部 こども教育部	環境政策課 学校教育課	・市立全小中学校における「佐賀市学校版環境ISO」の取り組みの継続。	・全53校を訪問または書類で審査し、取り組みの状況を確認した。 ・要望のあった学校のISO認定校の看板を製作している。（13校） ・環境教育担当者研修会を実施した。 　5/10　参加者：51人 ・環境教育指導者研修会を実施した。 　8/8　参加者：21人 ・小中学校が清掃工場を見学する際のバス借上料の一部を助成した。（20台分） ・環境作品展を実施した。 　応募：マイバッグ716点　ポスター368点 ・社会科副読本「くらしとごみ」を作成し小学4年生（附属小は3年生）に配布した。 ・環境担当教員に対する相談事業を実施した。（1名）	・表彰事業（ISO活動が盛んな学校を表彰する、3校） ・佐賀市学校版環境ISO制度について、要綱等の変更を検討する。 ・希望したすべての学校に対してISO認定校の看板を設置する。 ・小中学校の清掃工場見学時のバス借上料に対して助成する。 ・子ども環境活動発表を実施する。（2/1、4校が発表予定） ・「かんきょうぬりえ」を製作し、公私立幼保5才児に配布する。 ・その他、今後も例年通り継続する予定。
		環境部	環境政策課	・佐賀大学と佐賀市の連携による学生、市民、事業者が環境について学ぶ「佐賀環境フォーラム」の運営。	・15周年を記念した特別講演を開催した。 　受講者：一般73人、学生74人 ・環境分野に関する講義を12回開催した。 　受講者：一般・法人　延べ204人　学生述べ478人 ・ごみと自然環境をテーマに体験講座を各1回開催した。 　受講者：一般延べ14人　学生述べ65人 ・現地見学会として、バイオマス産業都市さがに関する施設等の視察を実施した。 　参加者：一般6人　学生33人 ・グループ型とインターンシップ型のワークショップを実施している。 　グループ型：4グループ　インターンシップ型：3団体	・ワークショップの中間報告会及び最終報告会を実施する。 ・市民の修了者に対して、修了証を授与する。 ・29年度についても、事業を継続して実施する予定であり、講義や体験型講座の内容を検討する。

資料1―②

基本目標横断プロジェクトの取り組み

プロジェク	内　容	担当部	担当課	取り組み計画 （Plan）	取り組み内容及び成果 （Do・ Check）	今後の見込み等 （Action）
		環境部	環境政策課	・トンボや水生生物などについて、親子で学ぶことにより自然と共生する意識を醸成することを目的とした「トンボ教室」の実施。 ・富士小中学校と連携した佐賀県準絶滅危惧種「ミヤマアカネ」の保全活動。	・とんぼ教室を実施した。 　全5回 参加者：延べ130人 ・トンボ写真コンクールを実施し、入賞作品を市立図書館で展示した。 　応募総数：628点 ・コンクール入賞作品を掲載したカレンダーを製作した。（1,000部） ・「ミヤマアカネ」の保全活動として、9/6、10/4に草刈りを行った。（小学生は事前学習を2回開催。）	・冊子「さがしのとんぼ」を改訂中。（1,000部） ・とんぼ教室、トンボ写真コンクール、「ミヤマアカネ」の保全活動は、継続して実施する。
		環境部	環境政策課 循環型社会推進課 バイオマス産業都市推進課 環境保全課	・今年2月にリニューアルした環境教育の拠点施設エコプラザの利活用促進のため、イベントの実施。	・市内外の小学生を始め、高校、大学、地域団体、企業・行政視察等の施設見学を受け入れた。 　見学者数：6,088人（12月末現在） ・中学生の職場体験学習として、リサイクル工場での選別体験を受け入れた。 　受入人数：3人（3日間） ・環境教育関係課7課で構成する環境教育連絡会議を開催し、環境教育の具体的な方法等について協議しながら各種環境教育事業を実施した。 ・「低炭素型社会」、「循環型社会」、「自然共生型社会」、「生活環境」など、多種多様な環境啓発イベントを実施した。 　・自然環境　：3講座　77人 　・省エネ対策：2講座　43人 　・3Rの推進　：1講座　73人 　・環境保全　：3講座　103人 　・その他、今年度中に、4講座を実施予定。 ・公民館における環境教育の推進を目的として、持続可能な社会づくりをテーマに「ESD環境教育セミナー」を実施した。　参加者数：75名 ・「ごみの分別」で外国人が抱える悩みや外国と日本のごみ文化の違いをテーマとしたイベントを実施した。　参加者数：16人 ・今年度中に、環境ビジネスの創出・販路開拓・異業種との連携等を目的とした環境ビジネスマッチングイベントを実施予定。 ・市内の私立高校を対象に、日常生活で気軽にできるごみ減量について、任意の2週間取り組んでもらう「高校生エコチャレンジ」を実施した。 　参加者数：1,109名（私立高校6校） ・地域や事業所等にて、出前講座等を実施した。 　開催回数：11回（1月末現在）	・今後も、社会科見学の小学生を始め、各種団体の施設見学を受け入れる。 ・今後も、中学生の職場体験学習を受け入れる。 ・環境教育連絡会議を随時開催し、今後の環境教育のあり方や進め方等についても協議していく。 ・環境教育の推進とエコプラザの利活用促進のため、様々な環境問題をテーマにした環境啓発イベント等を次年度も実施予定（実施時期等については検討中）。 ・平成29年度は、市内の県立高校を対象に「高校生エコチャレンジ」を実施する予定。 ・地域、事業所等における環境教育として、今後も出前講座等を実施する。

基本目標横断プロジェクトの取り組み

資料1―②

プロジェク	内　容	担当部	担当課	取り組み計画 （Plan）	取り組み内容及び成果 （Do・ Check）	今後の見込み等 （Action）
		環境部	環境政策課	・市内全自治会を支部とする「佐賀市環境保健推進協議会」が行う環境美化やごみ減量などの実践活動や啓発活動への支援。	・生活環境の保全及び浄化、健康で住みよいまちづくりに寄与することを目的として活動する「佐賀市環境保健推進協議会」の各支部に対して補助金を交付することにより、地域住民が地域の実情に合った環境保全活動や健康づくり等の活動を実践した。 ・協議会全体の活動として、環境・ごみ・健康づくりに関する視察研修を実施した。参加者：3コース計　106人 ・環境保全、ごみ対策、健康推進の各部会において、活動の実施や企画を行った。 　部会活動：2回　参加者：60人	・下半期も佐賀市環境保健推進協議会の各支部において継続的に実施予定。 ・各部会において、活動を実施する。（4回） ・佐賀駅周辺の路上喫煙禁止キャンペーンに参加し、路上喫煙禁止区域の普及啓発を行う。（11月） ・佐賀市環境保健推進大会を開催し、環境保全や健康づくりへの貢献者の表彰とごみ減量に関する講演会を実施する。（2月）
		環境部	環境政策課	・ラムサール条約湿地を活用した環境教育の機会として、東よか干潟ラムサールクラブの活動運営。 ・市立小中学校による東よか干潟見学時のバス借上げ料の助成。	・市内小中学生を対象として、東よか干潟ラムサールクラブ結成し、上半期に5回の活動を行った。（クラブ員：小4～中3 33人、地元大人 10人） 　4/30　開講式、オリエンテーション 　5/7　発足式、干潟の生き物観察（東よか干潟） 　6/25　有明海の生き物や環境について視察学習（佐賀県有明水産振興センター、鹿島市干潟展望館） 　8/20　佐賀県ラムサール条約湿地登録1周年記念イベント参加、交流活動発表（佐賀市文化会館） 　8/27 有明海クリーンアップ・アクトクリーン（清掃活動）参加、漂着ゴミ調査（東よか干潟） ・また、クラブ員の中から国内外の交流イベント2回に参加した。 　7/26～7/30 日中韓子ども湿地保全交流（3人、韓国安山市） 　8/5～8/7 KODOMOラムサール（3人、北海道浜頓別町） ・小中学校が東よか干潟を見学する際のバス借上げの一部助成を行った。（3校） ・見学時には、児童の事前学習のための子供向けパンフレット等の提供や、希望があれば現地にボランティアガイドを配置し、東よか干潟の価値や魅力を分かりやすく解説した。	・引き続き、東よかラムサールクラブの活動を実施する。 　11/12　鹿島市ラムサール条約湿地登録1周年記念イベント参加（鹿島市） 　11/27 大分県九重町のタデ原湿原で活動する子ども達との交流（東よか干潟） 　2/11（予定）野鳥観察、湿地保全に関する講話、活動のまとめ、閉講式（東よか干潟） ・平成29年度も平成28年度の活動をベースとして、新たに東よか干潟の底生生物調査を行い、次年度以降の活動定着を図る。 ・現在対象者を市内の小学校4年生から中学校3年生までとしていることから、中学校卒業者の受け皿（活動の場）の設置等について関係者（講師、佐賀大学）と協議を進める。 ○東よか干潟見学時のバス借上げ料の助成 利用数が伸び悩んでいる大きな要因として、「現地に案内施設がないことによる雨天時の対応」がネックとなっていることから、雨天時でも学習できるプランの提供や現地ガイドの手配など、学習環境の更なる充実を図り、利用校の増加を目指す。